



阿賀野クラブ 中島 正昭

国が示す財政改革の環境、公務員改革・給料削減について

質問 ①官民格差と言われているが認識は。②当市のラスパイレス指数は、適切か否か。③庁内機構改革の人は職員間の高揚感に繋がっているか、意識の低下を招いていないか伺う。

答弁 ①職員の給料に関しては、県人事委員会の勧告に準拠している、官民格差はない。②ラスパイ



無会派 雪 正文

阿賀野市の将来像について

質問 昨年暮れの衆議院選挙において自民党公明党が勝利し安倍政権が誕生した。現在、安倍政権のもとで大型の24年度補正予算案に続き、政府・日銀の共同声明として、「2%のインフレ目標」が設定され、共に長引くデフレからの脱却を目的としているが、一方で財政規律への強い懸念も指摘されている。デフレ脱却と同時に財政健全化を目指す

シス指数は95・7%で問題ない。③職員の納得感のある配置でモチベーションアップを図ると共に有能な人材を育てたい。
意見 人事院(委員)組織とは、借金してまで既得権を守ろうとする公務員退職職員の縦割り・縄張り主義の勧告ではないか。それに準拠する事が官民格差そのものではないか。

人口減少問題について

質問 大都市を除く全国の自治体で、この問題には苦慮し、それなりに手立ては施すも、有効なものが見かけない。当市の施策は次のそれぞれが効果としての自己評価は如何なものか伺う。
①経済活性化対策②「子育て環境日本一」を目指す公約した。妊婦から学童・生徒までの支援は。③寡婦・寡夫と婚外子への支援は。

という安倍政権にとって、この懸念払拭は今後の最大課題となってくるだろう。
阿賀野市においても平成25年度予算の歳入を見ると自主財源が25%と少なく依存財源が75%と多くあり、依存財源のうち国からの地方交付税がその多くを占めており当市においても財政規律を守り財政健全化を進めていかねばならない。そこで阿賀野市の5年10年先の将来像について国や当市の現状をふまえて市長の基本的な考え方を伺う。
答弁 私の基本的な考え方は、「元気で明るく活力のある魅力的なまち」をつくることにある。「元気で健康な人が多く住むまち、子どもたちの元気な笑い声が響くまち、企業も商店街も活気に満ちたまち」を標榜し、急速に進む少子高齢化や地域の活力の低下を克服し、安心して次世代に渡すことができるまちをつくっていききたいと考えている。



- ◆その他の質問◆
- ・阿賀野市の舵取りについて
- ・公共事業の推進にあたっての基本的な考え方について
- ・地場産業の現況と課題、その対応策について
- ・農業の再建策について
- ・観光の活性化策について
- ・阿賀野市全体背景をどのように捉え、対応していくのか



答弁 ①プレミアム商品券・住宅リフォーム助成・地場産瓦普及助成・企業誘致、何れも大きな経済効果があったと評価している。②妊産婦・子育て支援については、国・県の制度に準じ、健診・保健師、助産師による指導。児童扶養手当・ひとり親家庭の医療費・保育料・児童クラブ負担金・要保護児童生徒就学援助等々支援の充実を図っている。③婚外子支援については国・県の制度がない事でもあり、今後検討して行きたい。

空き家等の適正管理と有効活用について

質問 放置された空き家等が老朽化や豪雪、台風等の自然災害により、倒壊等の様々な問題を引き起こす要因にもなることから所有者に改善を促し、生活環境の保全を図るための目的と、空き家等の有効活用で定住の促進及び地域の交流拠点の整備を図ることを目的とした条例が県内の他自治体で制定済み、検討中と聞かれる。条例の



無会派 遠藤 智子



無会派 天野美三男

市長が選挙公約などで市民に示した政策の取り組み状況は

①消雪パイプの設置について

質問 昨年冬の豪雪のように、時として例年にならぬ降雪に見舞われることがある。高齢化が急速に進むなか、高齢者や一人暮らし世帯においては火災や救急などの緊急時の不安を訴える声が多くなって

制定について当市の見解は。
答弁 近年は放置された空き家等の破損や倒壊の恐れ、雑草の繁茂、害虫発生等の苦情や相談が自治会から寄せられている。老朽化が進んだ危険な空き家については所有者に適正な処置を求めているが、現在、市では保安上危険な家屋等に対し除去を勧告・命令が出来る、放置されているケースもある。
23年度に空き家戸数の調査を実施し、229件の結果であった。25年度に空き家の実態を詳細調査して、倒壊等の事故防止のための検討や、空き家等の適正管理の条例について他市の判定基準や実効性などの課題を調査し、対応を検討したいと考えている。
空き家等の有効活用として、所有者の了解を得ながら住まいを求めの方に次ぐ取り組みを検討したい。

いる。
消雪パイプの整備は市民の安心・安全な住環境を確保するための喫緊の市政課題であると認識している。現在までの整備状況と今後の見通しについて伺う。
答弁 今年度は、1億円の補正予算で、市内12地域の自治会で整備、今回の補正予算でも交付金6割を活用した消雪施設整備を4地区で事業費9900万円計上している。
平成25年度予算においても国からの交付金を活用し、10地区で事業費2億2500万円消費パイプの整備を計上している。
今後、市民の安全で安心な暮らしの早期実現に向け、緊急・重要性を考慮したなか、消雪パイプの整備促進に努める。



男女共同参画の推進

質問 市の附属機関などの審議会の女性の登用率を現在数値の32・2%から平成28年3月迄に35%と目標値と聞いたが、女性委員登用の比率が低い審議会や女性の声が必要と思われる審議会に登用率の検討を図るべきでは。
答弁 市は「附属機関等の委員の選任に関する指針」中に女性を積極的に選任するとあり、女性委員の登用率の増加に努め、男女がともに参画し、夢と幸せを大きくぐむまちづくりを進めていきたい。



②水原郷病院の救急医療体制の確立について

質問 新病院の開院に合わせた救急医療体制に向けて指定管理者との協議状況と医師の確保対策を伺う。
答弁 運営に関する協議の場は二つあり、そのほかに病院が設置している委員会があり協議を重ねている。
医師の確保は昨今の医療環境を取り巻く厳しい諸情勢から、目標にはなかなか届かない状況である。

◆その他の質問◆

- ・夜間休日診療の構築について
- ・特別養護老人ホームの整備について
- ・市民交流エリアの推進について
- ・文化会館の設置について など